

吉野川を釣る！



(第十堰)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに300種ほどの魚（淡水・海水・軟体動物含む）を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。現在35種達成ですが、今回は何種類釣れるでしょうか？

吉野川での魚種狙いも、かなりの回数を重ねだんだんと狙える魚が減ってきました。そこで狙いを大きく変え、R2の夏はハゼ類に挑戦してみました。今回からは新兵器を投入。それは市販の1g以下ジグと超軽量の竿です。

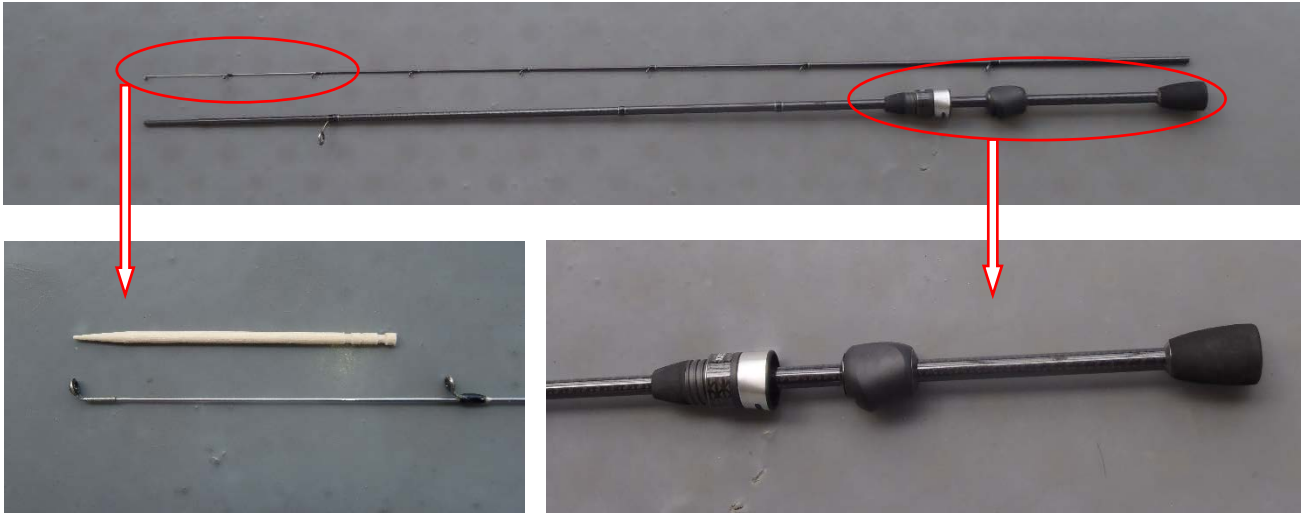
今まで小物釣りには、1g程度の自作ジグを使用していましたが、作るのが大変で根掛りしそうな岩場などを狙うことが難しかったのですが、とうとう1g以下のジグが市販されたので0.8gと0.6gを早速購入し、改造して実践投入してみました。それと最近、マアジ釣りがブームで超軽量・超高感度の竿が数々販売されているので、重量42gでチタンの竿先のものを購入し、実践投入しました。

これであれば、根掛り必至の込み合ったブッシュの奥も小型魚のじゃれ付くような当たりも捉えることが出来そうです。



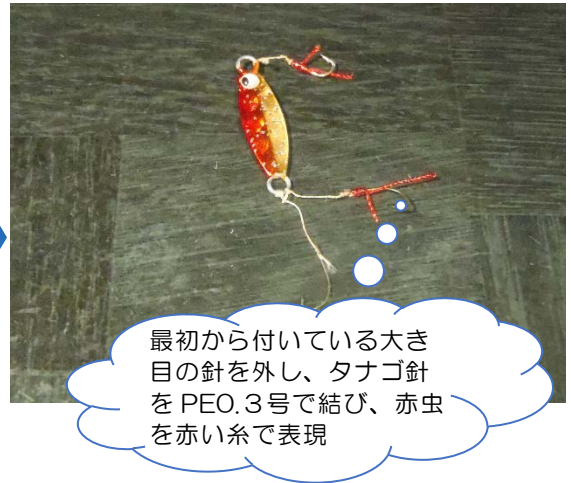
新兵器
ゲット！





チタンの竿先、太さはつまようじの1/3ほど

グリップ部分もぜい肉を削ぎ落し、最低限になっている。



最初に狙ったのは、第十堰下流の石がゴロゴロしているところです。

水の溜まっているところを観察すると、小型のハゼが数多く浮遊しているのを発見しました。シグを投入すると数匹のハゼが争うようにアタックしてきます。

あっという間に釣れたのは、「ピリンゴ」でした。このハゼは、ハゼ類にしては珍しく中層に浮遊しているハゼです。早速撮影会をしますが、全長5cmほどで特徴もないので写真を撮るのにかなりの時間を使ってしまいました。



5cmほどのピリンゴ



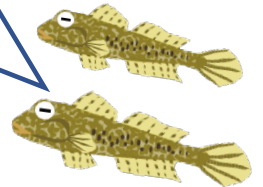
5cmほどのピリンゴ

続いて、石の隙間を狙っていると何種類かのハゼ類がアタックしてきますが、なかなか針に掛かりません。3回くらいアタックするとスレてしまい、来なくなりますので、また、違う隙間を見つけて狙っていきます。

そのうち掛かってきたのは、「チチブ」と「ヌマチチブ」でした。このハゼは、四国のどこの河川でもいて、よく釣れるのですが、同定が難しく今まで「ヌマチチブ」の同定が出来ていませんでした。今回は両方が同じ場所で釣れたため同定に成功することが出来ました。

ちなみに「チチブ」と「ヌマチチブ」が別種と発見されたのは、平成天皇様です。「小学館の図鑑Z日本魚類館」には執筆者のところに「明仁」の名前がありますので興味のある方は見てみては？平成天皇は、ハゼ類の研究で有名で何種類もの新種を発見しているそうです。

そしてなんと！アキヒト属なる属名もあるようで、これはハゼの研究で有名な平成天皇様にちなみ著名な研究者が献名したそうです。



9 cmほどのヌマチチブ



10 cmほどのチチブ

上の写真を見てもよくわからないと思いますが、よくみると頭部の白色点の密度、^{びなびれ}胸鰭基部の橙色線の有無、第一背びれの前縁の黒色点の有無でわかります。

今度は、砂の川底の部分を探っていきます。魚は、好きなシチュエーションがあり、同じようなところでは、同じ種類が永遠に釣れることとなるので色々なところを探る必要があります。やはり砂底では、違う種類のハゼが釣れてきました。「ゴクラクハゼ」です。こちら吉野川で生息しているヨシノボリ属5種のうちの一種です。



7 cmほどのゴクラクハゼ♀



9 cmほどのゴクラクハゼ♀

続けて探っていくと先ほどとは少し顔の形の違うハゼが釣れました。
 顔の形からヨシノボリと思いましたが、家でじっくりと同定すると、
「ゴクラクハゼ」のオスだということがわかりました。オスとメスで大きく
 形態が違う魚がいるので、同定が大変です。ヨシノボリ類は、徳島では
 ジンソクと呼んでいて、たらいうどんの出汁になる魚として有名?です。



7 cmほどのゴクラクハゼ♂



7 cmほどのゴクラクハゼ♂

それから、釣り続けましたが種類数はこれ以上
 伸びませんでした。まだまだ釣っていたかたので
 すが、真夏の太陽がじりじりと照り付け「熱中症」
 になる恐れがあったため、泣く泣く納竿としました。

<タックルデータ>

ロッド : アジングロッド 5.6 f (約1.6m)
 リール : ダイワ2000番
 ライン : エステル 0.3号
 ルアー : メタルジグ 0.5~1g



茜雲

次は、料理のコーナーです

今回は、海岸の消波ブロックなどにくっついている「カメノテ（亀の手）」です。

料理事は簡単なのですが、取り方が難しいので紹介します。

カキ・カラスガイ等と一緒に密集しているので、そのままでは取れません。金槌やペンチを使い周囲を取り去り、カメノテ単体にしてから手袋を使って取ります。





カキ等と密集している状況

おいしいゆで方

- ①まず、ごみ等で汚れていますので淡水で良く洗います。
- ②5%程度の塩水を作りカメノテを入れます。
- ③中火で4・5分ポイルします。
- ④もう出来上がりです。



採取するときの3種の神器

 食べ方 

取り出したカメノテの爪の下の部分をめくり取り右下の写真の部分のみを食べます。

見た目はいまいちですが、味は絶品です!



①茹で上がった状態



②下の部分を外した状態



③爪の部分を外した状態

今回は、吉野川に沢山の種類がいるハゼ類特集でした。ルアーで釣れることは ^{まれ} ですが、餌釣りをしているとよく釣れる外道です。まじまじと見ることは少ないですが、なかなかカッコいいハゼが居たり、小さくてかわいいハゼも居たりと狙ってみると案外楽しいものです。

吉野川には、今回のように色々なハゼ類がいますので、皆さんも見たことのないような魚を目指して釣りに出かけてみて下さい。

今回、**4魚種**ゲット。通算**39魚種**となりました。次はどこで何を狙おうかな？

釣り人Nのお魚紹介コーナー



今回釣った
お魚うんちく

<ピリングうんちく>

ススキ目 ハゼ亜目 ハゼ科 ウキゴリ属 ピリング

棲んでいるところ:北海道から屋久島、サハリン、色丹島、沿海州、朝鮮半島、中国の川の下流。

大きさ:5~7cm。

食べているもの:底生生物や小魚、付着藻類や半底生浮遊動物。

食べ方:主に佃煮の原料。旬は?

・よく似たものにジュスカケハゼがいるが、吉野川にはいないとされている。

<千千フうんちく>

ススキ目 ハゼ亜目 ハゼ科 千千フ属 千千フ

棲んでいるところ:東アジア温帯域の淡水・汽水域。

大きさ:8cmほど。

食べているもの:底生生物や小魚、藻類や半底生浮遊動物。

食べ方:佃煮、卵とじ、天ぷら、吸い物、みそ汁。旬は?

<ヌマ千千フうんちく>

ススキ目 ハゼ亜目 ハゼ科 千千フ属 ヌマ千千フ

棲んでいるところ:東アジア温帯域の淡水・汽水域。

大きさ:15cmに達する。

食べているもの:底生生物や小魚、藻類や半底生浮遊動物。

食べ方:佃煮、卵とじ、天ぷら、吸い物、みそ汁。旬は?

<ゴクラクハゼうんちく>

ススキ目 ハゼ亜目 ハゼ科 ヨシノボリ属 ゴクラクハゼ

棲んでいるところ:東アジアの温暖な地域。日本では中部以南の川の下流域にすむ

大きさ:12cmに達するが6~10cm程が多い。

食べているもの:底生生物や小魚、小魚、付着藻類。

食べ方:佃煮、みそ汁、から揚げ、卵とじ、出汁。旬は?

・全国的に少なくなっているようで地域によっては、絶滅危惧種としているところもあるそうです。

<カメ/テうんちく>

甲殻類 有柄目 ミョウガガイ科 カメ/テ属 カメ/テ

棲んでいるところ:海水生北海道~沖縄、マレー半島等。潮間帯上部

食べているもの:海水中のプランクトン。

食べ方:みそ汁、塩ゆで、出汁。旬は春から夏

・一見貝の仲間に見えるが、エビ・カニの仲間。1kg4~5,000円もする高級品

・東南アジアやスペインでよく食べられている。